



TITLE:

質疑欄：變光星に關して (プラネタ
リウム特輯)

AUTHOR(S):

CITATION:

質疑欄：變光星に關して (プラネタリウム特輯). 天界 1937, 17(191): 207-208

ISSUE DATE:

1937-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167421>

RIGHT:

質 疑 欄

(問)

變光星に關して：アマチュアの變光星觀測は如何なる價值を有するものですか、私共は時々その話をするのですが、はつきり知つて居る者はありません。特にその光度曲線からどんな事がわかるのか、又どんな役に立つのか、出来るだけ詳細御説明願ひたい御座います。自分のやつてゐる事の價值を認識してやる事は大いに所謂信念をもつと云ふ事になると思ひます。

(名古屋・中原千秋)

(答)

これは甚だ意義のある質問だと思います。どんな事柄でも單に熱情だけでなく、やつてゐる事柄の有する意義を判つきり把握してゐる事が物事を永續して行く上にも必要な事だと思います。扱こんな御質問には小生個人の意見を述べるより、この問題に關心を有せられる人々によつて討論される事が望ましいのですが機會のないのは残念です。アマチュアの變光星觀測と言つてもピンからキリまであり、専門家の域に達してゐられる方々も我々の仲間にあります。そんな方々の觀測の技術的價值の多いとは言ふまでもありません。こゝではアマチュア觀測として代表的な古くから知られてゐるミラ型星の觀測についてお話しませう。代表的だといふのは決して低級だと言ふ意味ではなく、1個月に數夜呑氣に興味本位に覗いてゐて眼に見えた結果が出て來、嫌になつたら直ぐ止めても差支へないといつた點で最も大衆の且基本的だといふ點です。此等の星は勿論歐米のアマチュア界でも多く觀測され、従つてそれ等の觀測を集められて光度曲線が引かれるわけです。ミラ型星の光度曲線は甚だ變化し易いものであり、極大、極小光度、週期の變化は勿論、増光時にこぶを表はしたりします。此の變化の法則を發見する材料となる譯です。週期が連續的に變化するものかと一時思はれてゐたのに、最近では突發的に變化すると見た方がよいといふ事が判つたり、又、元期の飛躍が發見されたりしたのも、アマチュアの多數の觀測の集まりのもたらした所です。

更に一步進めて之が一體何になるのか？ セフェウス型變光星が脈動によるものらしい事は(種々難點もありますが)一般に承認されてゐる所です。これが果してミラ型星にまであてはまられるものかどうかは疑問で、ミラ型星の變光原因は目下五里霧中にあると言つてよいのです。この謎はスペクトル等の研究にまつ所が多いですが、多數のアマチュアの平常の簡單な光度觀測より得られる上述の如き結果が、變光原因の解明の缺くべからざる一要素となる事は疑のない所であります。即ち1年や2年數百個の觀測を行つたからと言つて直ぐ何等かの結論が出て來る事はありませんが、それだからと言つて全然無意義ではない事は上に述べた通りです。

専門家の如き程度の高い觀測を意識的にされる極く少數の方は例外として、矢張りアマチュアの觀測としては趣味、興味を第一とし、一方多少なりとも自然の神秘を曝き人類文化の建設的な仕事に自らたづさわつてゐるといふ點に、文化的意義が見出されるのではないでせうか。アマチュアの慰の觀測よりさう易々と重大な發見ができる等と考へるのは進歩せる天體物理の現況を知らないものであり、誤てるジャナリズムや無意識的にも、ともすればアマチュアのみ所謂觀測に頼りたがる様な傾向を生ぜしめる程貧弱な我國の學界によるものでせう。光度曲線を引きそれより極大日や光度曲線の形を調べて楽しむ事、此の點に疑問を持つアマチュア諸子は先づ變光星觀測と縁がないと言つてよいでせう。尙一言、準戰時とか言つて増税、インフレで勤勞大衆がしぼり上げられてゐる間はアマチュアの變光星觀測の如き文化的方面の早急な發展は見られぬと思ひます。(小山秋雄)

會 告

倉敷天文臺の増築發展!!

過般來、岡山倉敷天文臺では原名譽臺長の厚意により、創立10周年を記念して、敷地の増大や建築物の増築、その他が行はれてゐるが、近日竣工の上、諸設備に大發展を見ることゝなつた。本會としても大いに慶賀すべきであるが、精細は4月號誌上に掲載の筈。